

Pictet Market Monthly

2016年4月のバイオ医薬品市場

バイオ医薬品関連企業の株価動向

4月のナスダック・バイオテック指数(ドルベース、配当含まず)は上昇しました。

承認関連ニュースでは、米国食品医薬品局(FDA)諮問委員会がサレプタ・セラピューティクス(米国)のデュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)治療薬候補エテプリルセンに対して否定的な見解を示した一方、インターセプト・ファーマシューティカルズ(米国)の原発性胆汁性胆管炎治療薬候補を推奨しました。またFDAは、アカディア・ファーマシューティカルズ(米国)のパーキンソン病に伴う精神病治療薬を承認しました。

M&A(合併・買収)関連ニュースでは、メディベーション(米国)がサノフィ・アベンティス(フランス)の敵対的買収提案を、「適切ではない」として、拒否しました。

決算関連ニュースでは、好材料と悪材料が交錯しました。アムジェン(米国)、バイオジェン(米国)は、ともに、極めて良好な決算を発表しました。セルジーン(米国)は良好な今期決算を発表した一方で、市場の予想通り、通年予想を小幅に下方修正しました。一方、イルミナ(米国)の決算は期待外れに終わりました。

今後のバイオ医薬品市場見通し

バイオ医薬品セクターの騰落率は、ここ数年、他セクターを上回って推移してきました。1)革命的な治療薬が市場に投入され、セクターのファンダメンタルズ(基礎的条件)が改善したこと、2)株価のバリュエーション(投資価値評価)が2009年に付けた低水準から過去の平均的な水準に上昇したこと、3)新薬のパイプライン動向から、今後数年にわたって良好なニュースが期待されること、4)M&A(合併・買収)活動が活発化し、パイプラインの有望な中・小型企業に対する医薬品大手やバイオ企業による提案が散見されること、等が背景にあると考えます。業界再編の動きは、当面変わらないと見ており、バイオ医薬品企業の利益成長率は、今後数年間、不測の事態を除き、相対的に高い成長性が期待されます。

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考情報であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、記載のデータは、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

図表1:バイオ医薬品株価指数
(ナスダック・バイオテック指数)の推移

2016年4月29日時点				
	前月比	過去3ヵ月	過去1年	
ナスダック・バイオテック 指数(ドルベース)	2.9%	0.3%	-19.8%	
ナスダック・バイオテック 指数(円換算ベース)	0.2%	-8.9%	-26.0%	
ダウ工業株30種平均 指数(円換算ベース)	-2.1%	-2.0%	-8.1%	
円/ドルレート	-2.6%	-9.2%	-7.8%	
(参考)	当月	前月	3ヵ月前	1年前
円/ドルレート	109.75	112.68	120.87	119.00
PSR(倍、実績ベース)	5.9	5.7	6.0	8.5

	過去3年	過去5年	過去10年
ナスダック・バイオテック 指数(ドルベース)	56.0%	151.1%	253.4%
ナスダック・バイオテック 指数(円換算ベース)	74.8%	235.8%	239.1%
ダウ工業株30種平均 指数(円換算ベース)	34.2%	85.5%	50.0%
円/ドルレート	12.1%	33.7%	-4.1%
(参考)	3年前	5年前	10年前
円/ドルレート	97.92	82.08	114.40
PSR(倍、実績ベース)	6.6	4.9	7.7

※為替レート:対顧客電信売買相場の仲値、PSR:2016年4月末時点のナスダック・バイオテック指数構成銘柄を基に算出した株価売上高倍率
出所:トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

11月の米大統領選に向けて、候補者の薬価を巡る発言が散見され、2016年の市場は値動きの荒い展開も予想されますが、長期の投資家には、足元、買いの好機が提供されていると考えます。良好な規制環境や研究・開発(R&D)の生産性の改善等が株価をけん引する状況は変わりませんが、堅固な事業基盤を有し、優秀な経営陣を擁する企業を厳選することは、極めて重要です。ファンダメンタルズは良好であり、バイオ医薬品関連企業が、未だ満たされていない医療ニーズへの対応を目標に革新を続ける限り、不安要素は見当たらないと考えます。

(将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

図表2:ナスダック・バイオテック指数

米ドルベース、月次、期間:2006年4月~2016年4月



出所:トムソン・ロイター・データストリーム社のデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

図表3:今後のバイオ関連学会予定

開催期間	学会名
2016年6月3日~6月7日	米国がん治療学会議 (ASCO)
2016年6月10日~6月14日	米国糖尿病学会議 (ADA)
2016年6月8日~6月11日	欧州リウマチ学会議 (EULAR)
2016年6月9日~6月12日	欧州血液学会議 (EHA)
2016年6月10日~6月13日	欧州高血圧学会議 (ESH)
2016年6月16日~6月20日	米国微生物学会議 (ASM microbe)
2016年9月16日~9月19日	米国骨代謝学会議 (ASBMR)
2016年10月16日~10月18日	米国神経学会議 (ANA)
2016年11月10日~11月14日	米国アレルギー・喘息・免疫学会議 (ACAAI)
2016年11月11日~11月16日	米国リウマチ学会議 (ACR/ARHP)
2016年11月12日~11月16日	米国心臓病学会議 (AHA)
2016年12月3日~12月6日	米国血液学会議 (ASH)
2017年1月19日~1月21日	ASCO消化器がんシンポジウム
2017年3月3日~3月6日	米国アレルギー・喘息・免疫学会議 (AAAAI)
2017年3月17日~3月19日	米国心臓学会議 (ACC)
2017年4月1日~4月4日	米国内分泌学会議 (ENDO)
2017年4月1日~4月5日	米国がん研究会議 (AACR)
2017年4月22日~4月29日	米国神経学会議 (AAN)
2017年8月28日~9月1日	国際血液学会議 (ISH)
2017年12月4日~12月8日	国際糖尿病学会議 (IDF)

※バイオ関連学会予定に掲載の学会の開催期間は変更、延期、中止されることがあります。

出所:各種資料を使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

図表4:今後製造承認・販売が期待される

バイオ新薬(ピーク時予想売上高2.5億ドル以上)

薬品名	治療対象病名
会社名	承認・販売目標
NUPLAZID	パーキンソン病精神障害
アカディア・ファーマシューティカルズ	2016年4月承認
オベチコール酸	原発性胆汁性胆管炎
インターセプト・ファーマシューティカルズ	2016年第2四半期
ソフォスブビル/ペルバタスビル(合剤)	C型肝炎ウイルス
ギリアド・サイエンシズ	2016年第2四半期
ZINBRYTA	多発性硬化症
バイオジェン	2016年上期
サリルマブ	関節リウマチ
リジェネロン・ファーマシューティカルズ	2016年下期
ガラフォルド	ファブリー病
アミカス・セラピューティクス	2016年下期
セルリボナーゼ	バットン病
バイオマリン・ファーマシューティカル	2016年下期
トランスラルナ	デュシェンヌ型筋ジストロフィー
PTCセラピューティクス	2016年下期
エテルカルセチド	二次性副甲状腺機能亢進症
アムジェン	2016年下期

出所:各種資料を使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考情報であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、記載のデータは、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

バイオ医薬品関連企業の売上高は相対的に高い伸びが見込まれる

バイオ医薬品関連企業の売上高は、新興国の企業を上回って堅調に成長してきました。(図表5参照)

バイオ医薬品関連企業については、①有望な治療薬候補の良好な治験結果の発表、②大型の新薬の承認、③新薬販売開始後の業績寄与の拡大などを背景に、米国企業や日本企業よりも相対的に高い売上高の伸びが見込まれています。(図表6参照)

売上高の伸びに沿って株価も上昇

過去の実績では、バイオ医薬品関連企業の株価は、売上高の伸びとともに上昇してきたことがわかります。(図表7参照)

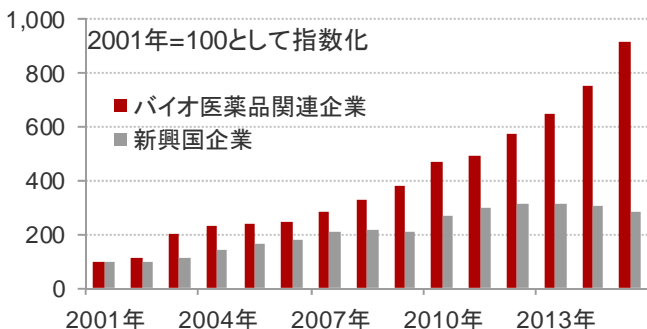
バリュエーション

2011年以降、バイオ医薬品関連株式の株価が大きく上昇したことから、PSR(株価売上高倍率)で見たバリュエーション(投資価値評価)は高い水準にありましたが、足元では株価の調整を受け低下しています。(図表8参照)

(将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

図表5: 売上高の推移

米ドルベース、期間: 2001年12月～2015年12月



※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数、新興国企業: MSCI新興国株価指数構成銘柄 ※売上高は一株あたり売上高(指数の値とPSR(株価売上高倍率)から算出)

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

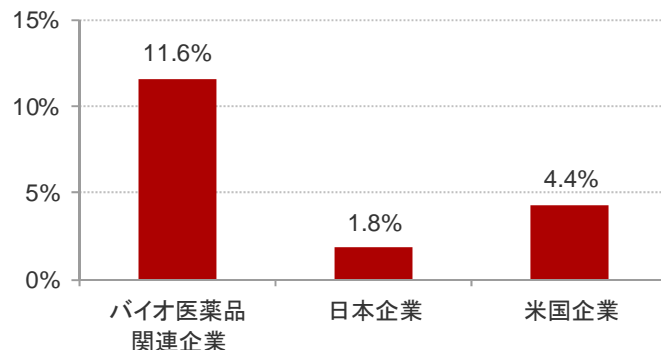
記載のデータは、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資家保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

図表6: 今後2年間の売上高伸び率予想

年率、時点: 2016年5月6日、ブルームバーグ集計アナリスト予想平均

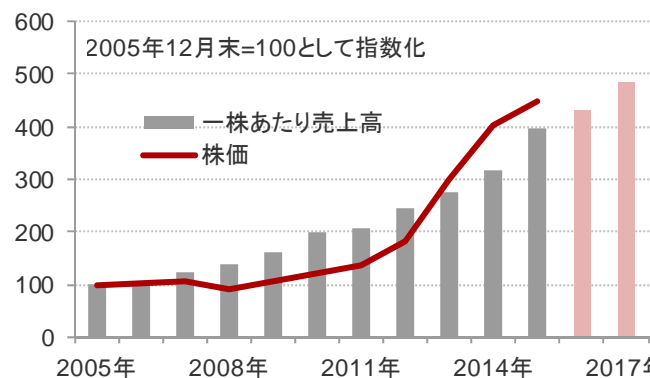


※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数、日本企業: TOPIXの構成銘柄、米国企業: S&P500種株価指数

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表7: バイオ医薬品関連企業の売上高と株価の推移

期間: 2005年12月～2015年12月(実績)、2016～2017年(予想)

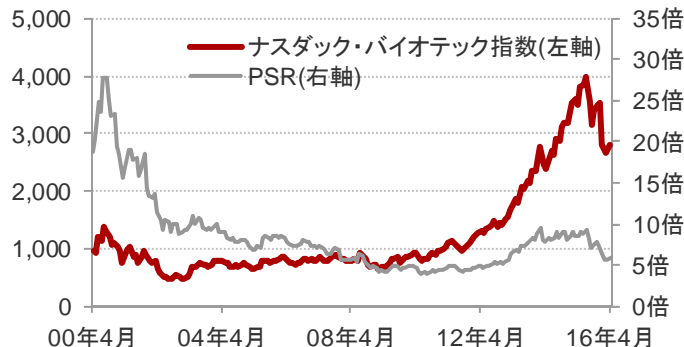


※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数 ※一株あたり売上高は、指数の値とPSR(株価売上高倍率)から算出 ※2016年～2017年の一株あたり売上高は、ブルームバーグ集計アナリスト予想平均

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表8: ナスダック・バイオテック指数とPSRの推移

米ドルベース、月次、期間: 2000年4月～2016年4月



※PSR: 株価売上高倍率。2016年4月末時点のナスダック・バイオテック指数構成銘柄を基に算出 出所: トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成